

平成 28 年度都立看護専門学校社会人入学試験小論文課題

次の文章は、人間の孤独と共存性について述べたものです。これを読んで、設問に答えなさい。

人間はおたがいに他者と共感することができるであろうか。人はそれぞれ他者を理解することのできない困惑と他者に理解してもらえない寂寥せきりょうのなかで生きている。自己と他者の間には埋めつくしえない距離が厳然として存在しており、それゆえに人は誰でも孤立した存在である。それと同時に人はそれぞれ他者に還元することのできない独自性を持った独立存在である。人間が個性的存在 (individuum) であるということは、人間は孤立した存在であるとともに独立な存在、つまり孤独な存在であるということである。

しかし、人間はひとりでは生きていけない。人間はつねに誰かに助けられながら誰かを助けていかねばならない共存的存在である。人間は孤独な存在であると同時に共存的存在である。というよりも、孤独な存在であるゆえに、他者の助けなしには生きていけない共存的存在である。そこに共感や思いやりが必須となる。これらは人間が人間として生きていくことの証しである。そうはいっても、孤独な存在であることのゆえに、共感や思いやりは至難なことである。自己と他者との間には幾山河の距離がある。この距離を無造作に踏み越えるしばしば人の口にする同情や憐れみは、かえって人の反感を呼ぶような安直な感情でしかない。

出典：池辺義教著「医の哲学」 行路社 1986年

(設問) 上記の文章を参考にして、あなたの考える人間の孤独と共存性について、具体例をあげて 1,200 字程度で述べなさい。